

## 課題解決型協創インターンシップ事業（総括）

団体名 ● 神崎ゼミナール、中尾ゼミナール、渡邊ゼミナール、土屋ゼミナール、梅田ゼミナール

代表者名 ● 神崎淳子（経済学部経営学科・准教授）／中尾公一（経済学部経営学科・准教授）／渡邊和道（経済学部経済学科・准教授）  
土屋仁美（経済学部経済学科・准教授）／梅田充（経済学部経営学科・講師）

コーディネーター ● 新広昭（副学長・経済学部教授）

### はじめに

本事業は、公益社団法人大学コンソーシアム石川が公募した「令和4年度大学生の地元定着推進支援事業」の中の「教育要素の高いインターンシップ事業」として応募し、採択された事業である。教育要素の高いインターンシップは「エクスターンシップ」と呼称されることもあるキャリア教育の一環であり、就活と直結した一般的なインターンシップとは目的が異なるものである。SDGsの達成が国際的にも、国内的にも重要な政策課題となる中、地域の中小企業においてもSDGsの達成に向け自らの事業活動と地域課題の解決をリンクさせることによって自社及び地域に新たな価値を創造・提供し、自社と地域の持続可能性の向上を目指す動きが現れている。学生にとっても、地域課題の解決を企業と共に若者の目線で考え、企業と地域に価値をもたらす活動に参画することは、社会に出たときに自らの仕事の意味と意義を見出す力を得る貴重な学びの場になるものと考えられる。

本事業は昨年度から「石川県中小企業家同友会」をパートナーとして実施しているが、本年度は同会と本学とで連携協定を締結し、より強固な関係性のもとの実施したところである。



左：大久保学長 右：橋本石川県中小企業家同友会会長

### 活動内容

学内の各ゼミに本事業への参画を呼びかけたところ、神崎ゼミ、中尾ゼミ、渡邊ゼミ、土屋ゼミ、梅田ゼミの5ゼミが参画することとなった。

各ゼミのニーズとシーズ（やりたいこととできる

こと）を聞き取り、同友会側の窓口になっていただいた地域政策委員会に提示し、参画企業を募っていただき、各ゼミの専門性が活かされるようマッチングをした。各ゼミの活動内容は次ページ以降に個別に記載する。

### 成果、結果

本活動の成果は、2022年3月7日に本学で開催した中小企業家同友会への活動報告会で発表した。当日は同友会の方々24名、本学の学生、教職員約40名が参加し、学生のプレゼンと熱心なディスカッションを通じて地域課題の解決や地域の活性化、中小企業の問題等を企業と学生とが一緒に考えることにより、中小企業の課題解決や魅力づくりに繋げていったものと考えている。



報告会の様子

### 今後の課題、展望

今年度は昨年度の実績もあり、報告会での企業の方のコメントをお聞きしても「企業と学生とが協働して地域に提供する価値を創造していくためのインターンシップ」という本事業の主旨を十分理解いただいたうえで参画いただけたと感じている。

今年度の取組み結果を踏まえ、中小企業家同友会からは来年度の事業継続のお話をいただいております。本学としても連携協定に基づき継続して取り組んでいきたいと考えている。